

図 土地利用図



資料) 国土地理院

### (2) 土地利用

本地域の土地利用は、住宅地と教育機関などの公共施設や商業・業務施設などが多くみられる。全体に低層住宅が多く、中部から北部にかけては、中高層住宅がやや多く分布している。

商業業務施設は大小様々な規模のものが東部や南東部に分布し、南部の一部には工業施設がみられる。

学校などの公共施設は中・西部など、公園は小規模なものが点在している。

図 道路網図



作図) ランドシステム研究所、岡本

### (3) 道路網

本地域の幹線道路は、中部を東西、南北に通っている。本地域内には、幹線道路は少ない。

区画道路は、一般の生活道路で、乗用車の対向が可能な幅員の道路で、中部や南東部などにみられる。

狭隘道路や行止り道路は、乗用車の対向がしにくいかできない道路や袋小路となった行止りの道路で、南部、西部などの広い区域にみられる。

図 外水氾濫予測図(淀川)

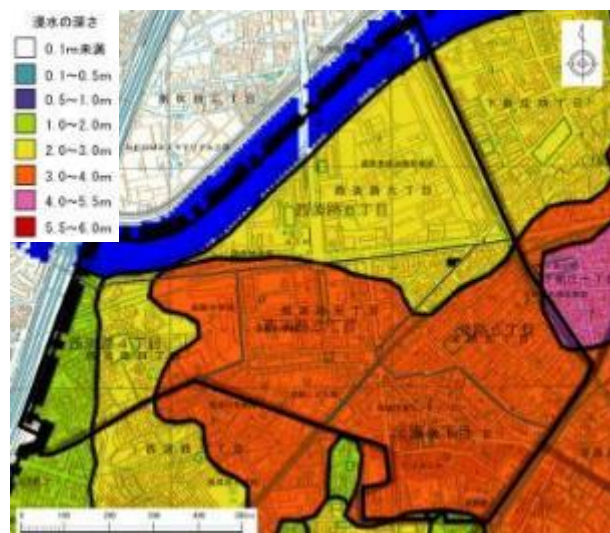
## 2. 災害予測

### (1) 水害予測

#### ① 淀川外水氾濫

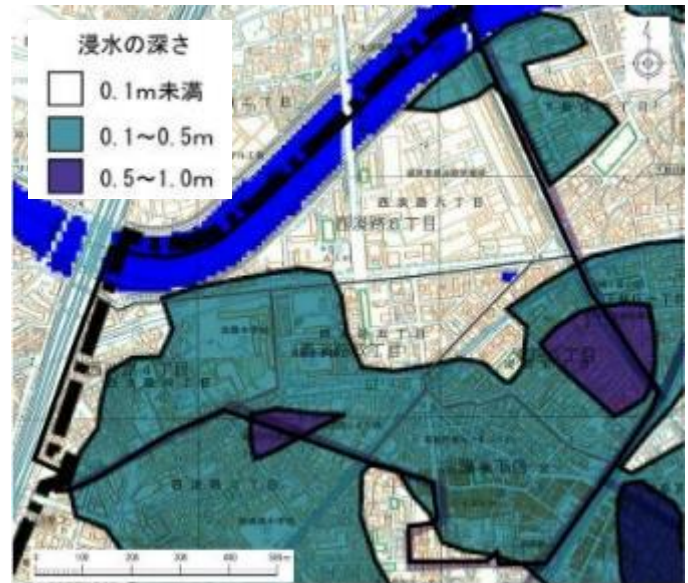
淀川の外水氾濫予測図によれば、本地域は、浸水深の最大は3m~4mで、この区域は、中部から南東部にかけてみられ、その他の地区は2m~3mの浸水深となっている。

収容避難所である淡路小学校・淡路中学校は、1階まで浸水する予測である。



作図) ランドシステム研究所、岡本

図 内水氾濫予想区図



作図) ランドシステム研究所、岡本

②神崎川・安威川 外水氾濫

神崎川・安威川の外水氾濫予測図では、本地域は、中部以南で1~2mの浸水が発生し、北部、西部で0.5m~1mの予測となっている。

③内水氾濫

内水氾濫予測図によれば、本地域は、0.1m~0.5mの浸水深が中部から南部にかけてみられ、一部では0.5m~1mの浸水となる予測となっている。

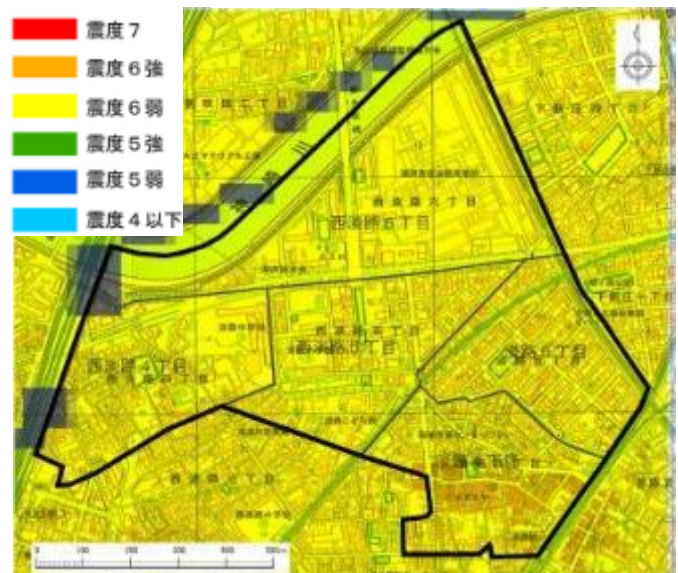
(2)地震予測

①震度予測

南海トラフが活動した時の震度予測は、震度予測図によれば、本地域は全域が震度6弱の激しい揺れが発生するものと予測されている。



図 震度予測図



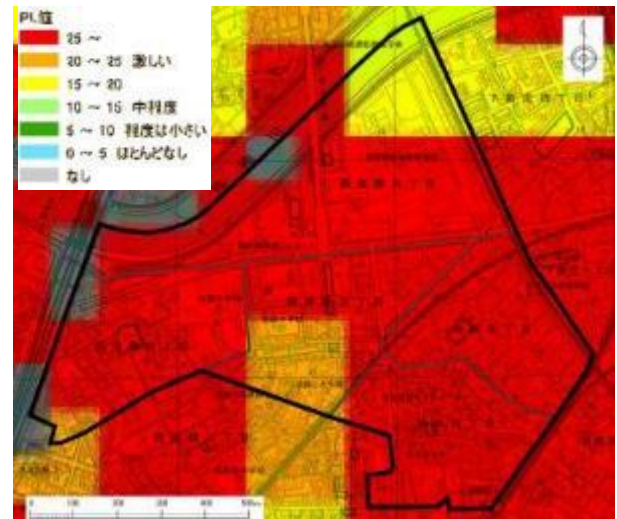
資料) 大阪府

②液状化

地盤の液状化はその土地の地下に堆積する砂層の分布や固結度、地下水位などの状況により大きく変化する。

本地域の液状化の危険性は、全般に高く、液状化が発生しやすいと予測されている地区が広がっている。

図 液状化予測図



資料) 大阪府

(3)東海・東南海・南海地震の予測

平成25年8月に、大阪府から発表された予測によれば、これらの地震が連動して発生すると、大阪市付近は震度6強~6弱の揺れが発生し、大阪湾付近